

竹 へ13
3150
特 1-6
へ13
3150
1

東山八景



明治三十二年一月十三日
平出鏗痴
讀了

昭和九年九月九日
購求



又わもちはいしーやほろもふれきりや
うさのさう終河原おのてのまほ思ひのり
江天乃暮雪もさくもむなぬらんも紀の
こやこやらし花れさくさくさくさく
賀茂川のさうれれれれれれれれれれれれ
乃端し帆ささるるるるるる清水寺れれれれ

煙寺乃晚鐘れしころ終る川のせらふに
 けり乃散乱す平沙乃落鷹とていひ
 さくもさくさくの月うげち洞窟のあり
 あり終るころもはくさくさく海濱村乃
 夕照のほろもれしあまやたよふふの
 終

香はくさく

六十一種ものなまは法隆寺東なる道邊より
 紅塵枯木さく川法華終るれさくさくけり

やはくさく園城寺のあり不くれさくさく
 万金丸槃若鷓鴣祖あは梅揚ま妃とい梅
 さくさくさくさくさくさくさくさくさく
 斜月白梅千鳥や法華む梅やさくさく
 花のさくさくさくさくさくさくさくさく
 丹霞これさくさくさくさくさくさく
 隣家夕陽ありさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさく



傾城の

賢人の此

柳の南

其角

印んか



箱妻の

見たり

不破の関

荷翠

不破伴とるん

かこや山三

傘

孫

かきり

めと燕

其角

縁さめさきめりさきさきさきさき
 りちち馬さきさきさきさきさき
 しめしめさきさきさきさきさき

右車山の系者曲二曲さきさき
 しめさきさきさきさきさき
 けさきさきさきさきさきさき
 あさきさきさきさきさきさき
 しめさきさきさきさきさきさき

骨道風僊



回雪飛僊

○白拍子藤波出魂

骸骨の 鬼貫

粧少

死見哉

食物も

水

魂祭

山風雪



胚新道慾

○不破道犬 伴左衛門父

其角

の声ぐ

石場

時鳥



皮蛇足畫

○丹波國因果娘



薄陰寒水

○六字南無右衛門



天機心匠

○淳世又平重起



大津繪の
筆乃くわゆる
何佛

芭蕉

守節握符

○貞婦磯菜



言水

花瓜や

絃とやいれ

琵琶の上

名古屋巻之一

夜動晝藏

○銀杏前



其角

聞のひま

龍
り
る

裂石穿雲

○佐々木桂之助國知

其角

七月々

暮露

よび今

由と聞

又平妹於竜



幡非風非

○舊家怪



水風呂の下や
案山子れ

舟の終

大草

昔話 稲妻 表紙 總目録

① 遺恨草履
② 風前燈火
③ 胸中機關

④ 荒屋奇計
卷之二

⑤ 厄神報恩
⑥ 因果小蛇
⑦ 呪咀毒鼠

⑧ 暗夜駿馬

⑨ 辻堂危難
⑩ 夢幻落葉
⑪ 斷絃琵琶

卷之四

名古屋卷之二

〇

① 修羅大鼓
② 靈場熱鬧
③ 仇家恩人

卷之五 上册

④ 孤鴈禍福
⑤ 名畫奇特
⑥ 雪溪非熊

⑦ 花柳鞋當

全 下册

⑧ 刀劍稻妻
⑨ 積善餘慶

以上

通計二十回

總目錄終

昔話稻妻妻表紙卷之一

江戸 山東京傳編

一 遺恨の草履

今昔人皇百三代後花園院の御宇。長祿年中。足利義政公の時代。雲州尼子の一族。大和の國と領を。佐々木判官貞國といふ人ありたり。兄弟二人の男子とありたり。兄は桂之助國知といひて。今年二十五才あり。弟は花形九とく十二才あり。兄は先妻の子。弟は後妻の跡手の方とあり。出生し。子なり。桂之助の伯父。藏人貞親といふ人あり。是則判官貞國の弟なり。由多ふ。一万町の分地と。与へ同國平群。別館と造りて。そゝおき。一人の娘とまうけ。先よりて夫婦とあり。名と銀杏前。息女。容顔。養。成長の後。桂之助の内室とあり。名と銀杏前。

との夫婦中しりましく。やど多く男子誕生あり。其名と月若とひく。
 今年七才のどありぬ。其比義政公京都室町新館と宮て花の御所
 と号し。兼て花車風流と好みひ。近仕の士も列候の子息のりより。
 養男と撰びく。召つられも。桂之助兼く養男のまそく人のふより。け
 撰び入て京都おめされ。右近の馬場の旅館に住。室町の御所に通ひて
 勤まり。此後桂之助おちるひ。上京し。家士へ執權不破道大子。
 不破伴左衛門重勝。長谷部雲六。笹野蟹巻。藻屑三平。土子泥助。大上
 雁八等あり。去程小桂之助妻子へ困小残。おき其身独長く在京御所
 勤の氣勢けりりり。頃日病がらふり。折く悩む。一時家士
 等。桂之助前集。何殿の齋結と慰支りやと評議し。けり。さ
 尚家の重室。巨勢の金岡。画。百蟹の圖。百種の蟹。けり。

繪巻物あり。室町殿。古書画と好み。小より。伊達達。清賢
 の。命。とつけられ。國元より。名古屋之即左衛門。名古屋
 山之即元春。彼巻物と携へ。上り。とよら。尚館。逗留して
 のり。兼て大殿申樂と好む。山之即武藝の。乱舞と字
 ひく。扇。名。登の者あり。け。皆く口と揃へ。多。山之即
 上京。幸ひ。あれ。か。一。一。御覽。彼が。御覽。頂日。時。り。
 白拍子。藤波。と。女。年。ハ。七。才。の。り。歌。舞。吹。彈。の。業。也
 達。し。ち。を。類。ま。れ。あ。る。養。女。の。古。の。祇。王。祇。女。佛。り。あ。も。と。さ。く
 と。さ。う。さ。る。お。め。く。ゆ。彼。と。召。て。山。之。が。相。人。也。乱。舞。俳。優。と。催。し。り。
 い。れ。観。物。の。い。つ。ん。と。伴。な。ま。と。ら。れ。と。わ。ら。る。ふ。ぞ。桂。之。助

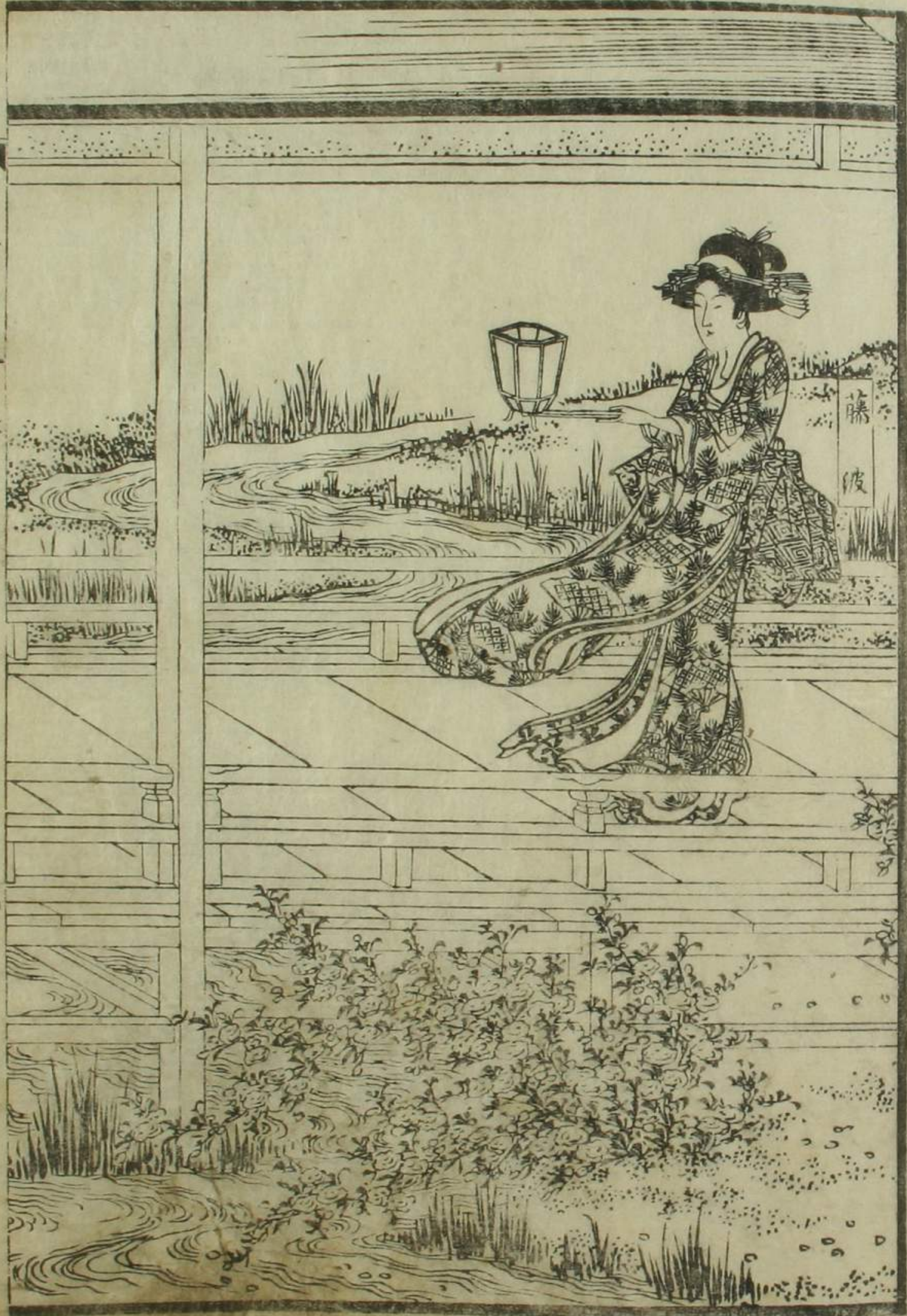
人小あび。夫きりり。奥のん。おご催さべ。と命下けし。皆くわ
 ちゆ。つひ。遅れ。つら。日彼藤波。あ。び。唯方と召し。山と郎成
 く。て。乱舞俳優。と。せ。着。く。酒宴。と。ま。う。け。く。大。小。奥。と。催
 たり。かく。て。山。と。郎。藤。波。う。り。く。種。く。の。舞。り。て。後。酒。酌。の。乱。足。西。寺
 の。亂。舞。無。力。墓。無。骨。蚯蚓。の。道。行。り。福。廣。聖。の。袈。紗。求。妙。高。尼。の
 緋。縹。を。あ。ど。の。み。両。人。立。合。の。俳。優。り。て。あ。ひ。と。生。じ。終。の。り。て。藤。波
 男。舞。と。不。秘。事。と。舞。ね。これ。昔。後。鳥。羽。院。の。御。宇。通。憲。入。道。護。波
 の。磯。の。前。司。と。ら。ふ。女。小。侍。へ。る。舞。あり。金。の。立。鳥。帽子。白。水。于。小。紅。の
 大。口。と。死。太。刀。と。あ。び。く。立。舞。さ。ぬ。誠。も。沈。魚。落。雁。羞。月。閉。花。の。容
 あり。も。く。く。と。袖。へ。奪。鳳。の。舞。ふ。ひ。く。歌。う。く。色。い。頓。伽。の。轉。が。く。く
 あ。れ。皆。人。感。の。く。奇。妙。の。舞。妓。や。と。賞。嘆。の。志。と。く。く。ハ。カ。マ。ウ。ク。ウ。ク。ウ。

此。時。より。桂。之。助。藤。波。と。恋。を。め。く。病。の。つ。く。去。只。只。川。の。水。胸
 かの。あ。れ。て。恋。の。淵。と。かり。舞。と。る。ふ。更。と。せ。く。度。い。め。と。せ。け。る。が
 つ。ひ。不。伴。左。衛。門。と。う。ひ。ろ。く。友。波。と。桂。之。助。の。妻。か。わ。く。館。小
 引。と。り。て。給。仕。と。せ。く。と。い。ふ。桂。之。助。望。たり。く。最。愛。流。く。ゆ。け。る。み。くれ。が
 妹。不。於。於。と。く。今。年。十。二。才。か。あ。く。少女。の。あり。け。と。これ。と。も。館。あ。め。く
 と。せ。く。友。波。と。桂。之。助。と。い。ふ。ひ。ろ。く。藤。波。も。桂。之。助。が。着。男。あ。る。あ。わ。て。く
 誠。心。と。足。く。鴛。鴦。の。契。浅。く。と。り。く。桂。之。助。の。御。所。の。勤。仕。は。り
 そ。う。ふ。あり。ぬ。され。ども。佞。臣。等。の。これ。と。幸。と。い。ふ。昼。夜。の。つ。く。と。く。ま
 せ。ど。花。お。人。と。あり。て。酒。宴。嬉。樂。の。と。あり。く。せ。く。盲。酒。珍。膳。席。上
 小。曲。野。曲。謳。歌。室。中。か。ま。び。と。く。恰。も。妓。家。娼。門。の。所。行。亦。似。く。
 う。た。て。り。け。る。形。勢。あり。山。と。郎。逗留。の。間。げ。乃。俸。と。見。聞。して。只

独胸ひとりむねとつめ安やすこ心こころハせざりたり。ちうね小伴せうばん左馬さまつりつり。かどしりう。
 友波ともなみ小慕せうぼ慕ぼ。千束ちづらの艶唇えんしんとかくつりつり。藤波ふじなみハ手てもふれど。
 尺はかばかくこれ瓜うりゆぎ。一言ひとことの返答こたへふせど。伴ばん左馬さま一向いっこう名なひとま
 らど折やぶとつりつり。おどつりつり。おどつりつり。おどつりつり。おどつりつり。おどつりつり。
 わの彼かれが恨憤うらみらんゆをわして心こころ一つひとつとさめおさるる。今いまハかじこ
 と得えど。桂けい之助のすけハ艶唇えんしんとさめ。彼かれうあまひとつらふ告つげね桂けい之助のすけハ
 短氣たんきの生なまれあうへ心こころ狂くるく。時ときあれこれとさめとひとく
 奮然ふんぜんく怒ど氣き天てんハさうのり。色いろ死し伴ばん左馬さまとせ出いし。の艶唇えんしん
 とつりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。
 かくる糸いと罪つみ種むね甚し重おも。後日ごにちの足あしせしわふ。我われいんごう手てはくこと
 ありとつりつり。白靴しろくつ巻まと抜ぬき。けしは次の間つぎのまハひくこと

山やま之部のべいとつりつり。走はし走はし袖そでハとつりつり。押おしさわ。詞ことばとつりつり。つりつり。つりつり。
 小こぞ。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。
 ありつりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。
 ちわいじつバ。伴ばん左馬さまの一言ひとことの分説ぶんせつあく只ただ打うちちられど伏居ふしる。桂けい之助のすけ
 山やま之部のべと顧かへり。汝なんぢ上かみ草履ぞうりと以もつ。伴ばん左馬さまの面おもてと打うち辱はぢれ。山やま之部のべと
 命いのちど。山やま之部のべ頭かぶとつりつり。汚けがれ。彼かれハ執權しやくけん職しやくハ
 是こゝ道みち犬いぬが児こ子ごあてゆべ。この候さし汚けがれとまつりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。
 打うちよ。つりつり。我われ今いまと背そむつりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。
 かいゆつりつり。傍輩ぼうばいの因身いんみ武士ぶしの情なさけふゆへ。辱はぢふちのひど。押おしつりつり。願ねがひ
 若わ若わといつりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。つりつり。





藤波

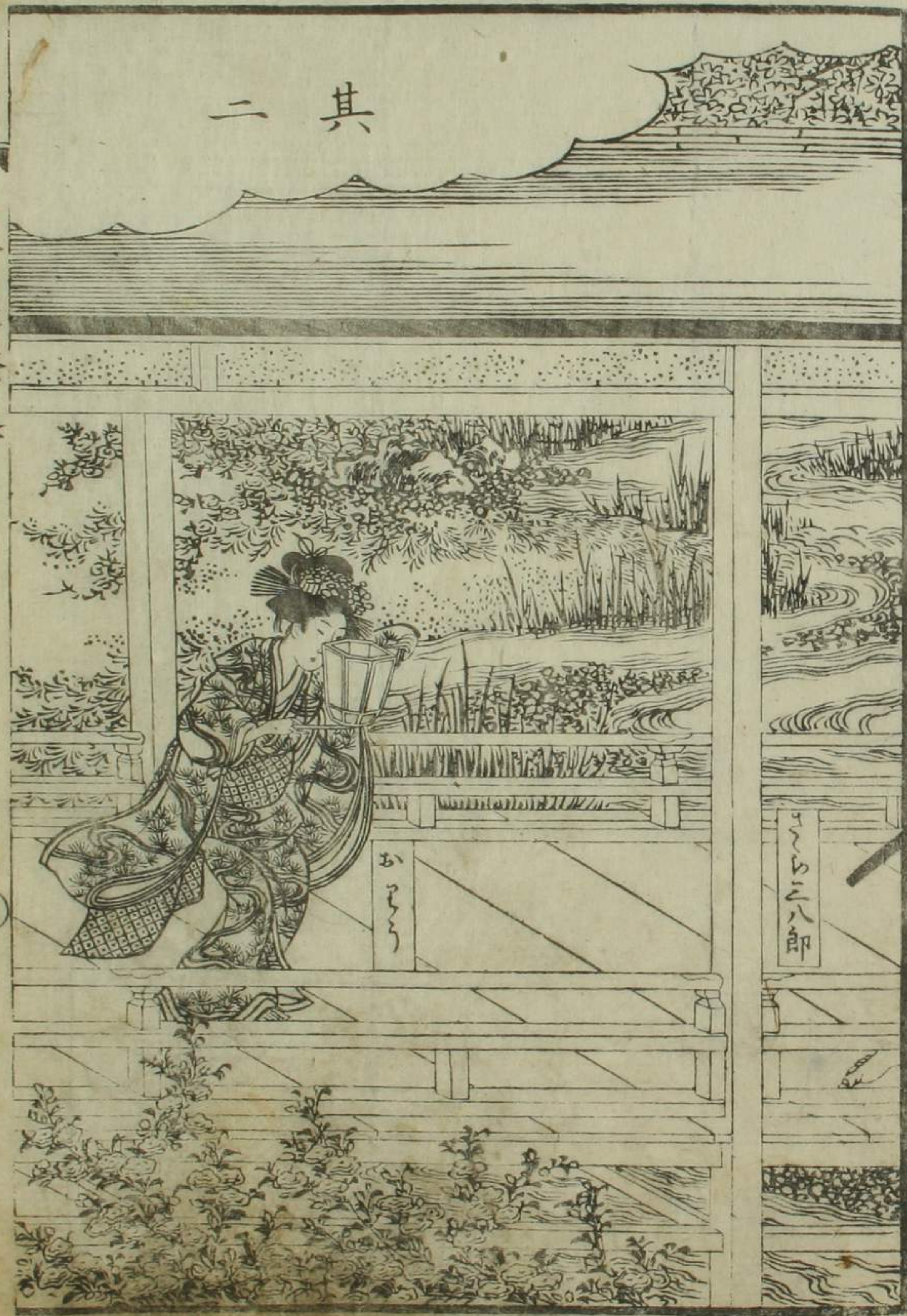
藤波



三郎

佐々木の家士
 佐々良三郎
 忠義の為
 白拍子
 藤波と
 殺と

名古屋



ろげ。已小腹すこかつきたんとせ。俄いかかりひありくるいみく今いま
 死しをくまい命いのちふのどど。人ひとの足をめぬこと幸さいふは。不ふ破は道どう大だいが為俵はたけ
 お家いへと乱まぶれきさごりあり。これよりもも出い奔ほん。權けん命いのちとあがへて
 主しゅ君くんの目代めしろとあり。彼かれが悪意あくいと見あり。其その後のちは友波ともなみが
 所ところ縁ゆかりの者の恨の刃のやいと死んこも武士ぶしの乃まるべしと心とさめ
 て死骸がいふひふ忠義ちうぎの為といふある科り死おこも無代むしろ小せう殺ころ
 せし。不ふ便べんとあらずけずも刃のやいと冥途めいどうおつて分説ぶんせつと堂と
 合あせ南無なむ阿あ弥い陀だ佛ぶつと口の裏小こ回わい向きやうと退きおんと折せりも
 友とも波なみの妹の於於おの下りのつりも送と案といふひの乃手て燭しやくと
 ろりて何なにの心もあくけ不ふままと来のと。之この八はち郎らうと顔入かほい合あせ血不
 つからりまま。色いろととれれ。之この八はち郎らう手てを刀の鉤打うち。手て燭しやくとり

と打うち落おち。吻くちとめ息いきつまもめど又座ざつまふ不逃にげとる。深夜しんやと
 つの夜よ嵐あらしままと烈とれ。誰たれ一ひととれと知者ちやあらりまらり。かくて之この八はち郎らう
 我わが家やおろり妻磯いそ菜なおろりの責せきと語りいまま。おろりまらり。おろりまらり。おろりまらり。
 之この八はち郎らうの金子こねを懐少すく。おのまい今いま年ねん十二じふに才さいおろり楓との娘むすめとせおひ。
 妻つまおろり七才さいおろり栗太た郎らうといふ男子ことおりせ。夫う婦ふといふのひやらあ。
 後のち門かどより逃出にいでとる。四し方ほう暗くらくりて東西とうせいと轉せど。雨あめハ中つり降ふり
 て袴とろりめがくくあれど。雨あめとどおろりつけぬ。濡ぬ衣ぎ足あらひ。
 ままといつこと歩きかく。素足すあしあられば乃ならぬりて心こころめく前まへを走り
 飛とひわく引くらり。おろりを背後せうごと顧み。怪哉あやう心こころ火ひと燃。
 ちり友とも波なみが姿かげらひのままとわり。行いとやと引とこ。
 之この八はち郎らう時ときちとらと冷ひやとりける。刀やいばと抜く斬折きりの妻乃な

手とそりやくむらふ。又ちろと炎燦々。若波が姿ごとく立あつても中
ととまへたり。妻子の目も又入れども。八部が目前のまがらりの
てくつこまとりり。此のあつりれ彼廻小立ち。斬と木へ立さす。動氣
烈きこ八部も。若うちまびき足あそびて走るここのど。妻乃
磯葉もよりそのお。なびく〜と〜とされ。髪も乱れり〜と破き。
お惚とく〜と倒し〜と〜と心と麻しと。百歩むりも過去時。
烈風颯とあつ〜と来と。大粒の雨ふてと打を〜と降か〜と。團の心火
つゝと追て来と。見〜と。空中中〜と二ツふり〜と。一の娘楓が懐小入。二ツ
ハ栗太郎が懐小のりぬ。是乃友波が死霊。兄弟の思ふ〜と眼を転る
一端あり。かして夫婦こけつ〜とまるぶつ。〜と走り小走り。辛どと遙小途
の先お惚恙とさへなびびり。けし〜と〜と〜と〜と〜と〜と。風雨おさまり

雲とれ〜と臙月〜と。草の緑小影うつ〜と使小北山とと杖坂とより
あまりの息ととれぬ。茂林のうら小り。夫婦背よりあ人の子と
わ〜と岩の上小尻け濡衣ととぞり。清水小咽とらる。〜と〜と
権中〜と居る折〜と。坂の〜とより若〜と〜と。女〜と〜と。髪素足
おと〜と〜ととび〜と〜とと歩〜と来ぬ。〜と〜と〜と〜と〜と〜と。煙の
か〜と〜と。壁人の〜と〜と。人の形とらる。女のまへ前小立。糸のやうありある手と
あけ〜と〜と〜と〜と。まゆげバ女足と〜と〜と〜と歩む。まゆげなれば女立
と〜と〜と。頭と傾ておと〜と〜と〜と。女立と〜と〜と〜と。かの怪物。又手と
あけて〜と〜と〜と〜と。女ふるま舊榎の下小り。權〜と〜と〜と〜と〜と
と泣居〜と〜と。かの怪物梢と〜と〜と〜と。女あ〜と〜と〜と〜と。お打〜と〜と
と泣涙梢の栗と〜と〜と。怪物又榎の枝と〜と〜と〜と。お打〜と〜と。仕方と



佐々良三郎
 藤波の枝
 妻と具
 逃ぐ途中
 小音編
 女救ふ

各古屋巻之一

栗太郎

どれバ、女らまづれ前後と顧つ。やうて腰帯と解、木の枝ハ打かけたり
 三八郎妻より、本蔭の暗ハわたり。此乃体と見え、暗ハわたり、
 彼怪物ハ世ハ死神なり。首縊榎まどりのわたり、前ハ縊れ
 者ハ亡魂、樹下ハ死まりて、死神とあり。人といふは、縊れむと世
 の語柄ハ、ぼつと目も、眼前ハこれハ、どめあり。我忠義ハ、為と
 のひあがり。罪あら、友波と殺せ、夏、ふらう、悲、愁、夏、涼、せめて、け
 女とたをけ、友波ハ冥福と、り、種、も、ま、怨魂と、ま、む、便、も
 あ、と、ん、と、お、り、あ、う、ら、。彼女西ハ、わ、ひ、と、掌、と、合、せ、念、佛、数、遍、と、か、へ
 わ、ど、く、縊、死、ん、と、ま、と、ま、れ、ま、て、ま、ぐ、と、声、け、て、走、り、出、背、後、より、抱、
 き、ま、む、女、ハ、お、り、ひ、か、け、さ、る、夏、あ、れ、ハ、打、驚、き、由、あ、り、て、死、ね、ハ、あ、り、ぬ、者、
 あ、れ、ハ、ま、り、と、死、せ、て、ま、折、角、と、ひ、ま、り、つ、つ、の、の、と、二、度、の、お、り、ひ、ま、り、人、

よとつ、ぶ、や、ま、て、又、縊、ん、と、ま、と、ま、ら、う、と、ま、め、一、命、と、失、ん、と、ま、か、わ、と、あ、れ、
 定、一、迫、も、夏、あ、ん、が、ま、が、其、縁、故、と、語、り、ゆ、若、我、力、ハ、及、ぶ、夏、あ、ん、
 かと、尽、く、と、救、く、と、ま、あ、り、と、り、女、情、涼、き、詞、と、せ、何、方、の、侍、方、の、
 知、ぐ、れ、も、誠、ハ、悲、涼、の、あ、せ、あ、り、さ、り、あ、ら、う、其、故、と、語、り、も、こ、こ、と、
 生、あ、ら、へ、が、れ、ま、あ、れ、ハ、け、怪、ハ、見、捨、て、侍、通、ら、と、さ、れ、か、し、と、の、ハ、八、郎、
 か、こ、ひ、て、い、ひ、ま、り、と、ま、知、ら、ぬ、者、あ、れ、ハ、卒、赤、井、語、り、ぬ、ら、う、と、ま、世、の、
 常、言、ハ、勝、も、談、合、せ、と、い、ふ、夏、あ、り、何、も、あ、れ、と、ま、と、語、り、ゆ、け、と、
 誠、心、面、ハ、わ、り、れ、け、れ、と、女、權、思、案、一、衣、さ、り、涼、き、侍、心、と、ま、り、小、口、ん、
 も、つ、が、あ、れ、ハ、一、通、語、り、と、ま、ん、夏、ハ、け、辺、ハ、住、武、士、の、浪、人、の、毒、あ、ら、う、家、
 貧、さ、ふ、ま、り、ま、れ、ど、り、て、先、祖、傳、來、の、物、と、金、二、十、兩、ハ、質、入、り、た、ら、と、夫、の、
 妹、あ、ら、の、ま、お、よ、び、と、これ、と、愁、ひ、二、十、兩、の、金、子、と、合、力、し、と、ま、は、

く。恩と著。恩小著さるの理ひて某が意小あさむ。涼夜といひ旅人の身
殊小足弱と伴及といそぐ。ひまざりがじ。赤縁ものぐ。かゝりて相
見のべしといひささく。ゆゑの本。流小走り入。女へ涙と流しつ。金と
押つておいてさりとさめ。ちむくく。跡と伝拜りて来。一。急ぎ去ね

三 胸中の機関

さて右近の馬場の館におきて。其夜友波が妹於。妹の死骸と
見ついで大い驚き。色々々々。いさむ。侍宿の武士等馳集り。
人小強勃。いそぎ。主君の前小出て。ちむくくと告ささへん。ば。
桂之助ありてまどひく。那裡小到。友波が死骸と點検して且驚
き且悲。何者の所為あるやと疑ひ。先於。死骸とわけて。其の様と伺ふ。
術。良。二八郎が殺。一。なる。と告。折。も。並野。蟹。い。さ。へ。

馳来。百蟹の巻物。失。い。桂之助益驚き。館中とこまや
へ小穿。鑿。の。ふ。二八郎家財。捨。か。妻。子。と。携。て。逃。去。長。谷。部。雲。六
も。出。奔。の。体。あり。と。し。け。且。ば。さ。さ。の。彼。等。あ。人。の。合。せ。て。百。蟹。の。巻
物。と。盗。取。た。と。友。波。小。え。と。め。さ。せ。ん。さ。あ。く。害。一。去。さ。る。小。う。こ。む
あ。い。足。弱。と。さ。も。あ。ひ。さ。れ。ば。よ。も。遠。く。の。走。る。は。じ。追。人。と。つ。う。り。と。や。く
捕。へ。と。む。べ。し。と。念。ト。け。る。小。ぞ。四。方。小。手。分。し。と。追。行。々。り。や。く。て。翌
朝。小。つ。り。追。人。等。立。ち。り。い。づ。く。へ。逃。去。の。や。ん。影。と。さ。へ。と。告。ぐ。ん
へ。桂。之。助。又。の。さ。れ。さ。る。む。り。あり。これ。さ。へ。不。慮。の。強。勃。あ。る。小。取。次。の
侍。士。ま。う。り。へ。で。御。國。元。より。執。權。不。破。道。犬。自。殺。小。の。や。さ。さ。さ。只。今。著
駕。つ。さ。れ。ぬ。と。告。る。桂。之。助。眉。と。さ。い。め。先。づ。り。て。何。の。沙。汰。も。あ。ら。な。小。
乃。大。い。さ。さ。上。京。せ。し。へ。い。さ。も。心。得。さ。る。夏。あり。何。ゆ。や。ん。と。心。安。さ。る。べ。

待居まちかより小程せうどあり不破ふへ道みち犬いぬ旅たび装束しょうそくの俣まみとち通とほるそのさぬいふ
とあれハ惣そう髪かみの頭かぶ小素せうそ雪ゆきとつゞね。あつしとれ額いん小老せうらの波なみとらへ高たか
年ねんとつゞも身み軀くとくもつゞと。奸かん佞ねいの面おもて野や狐このぐく。貪えん欲よくの眼まなこ
皂そう離り小類れい。相あひま貌まうきまらへ兇きやう悪あくあり。笹ささ野の蟹かに。藻も屑くず三さん平へい。土つち子こ泥でい助すけ。
犬いぬ上かみ雁かり八はち等とう。四よ人にんの者ものも跡あと小せうつままくままり出いぬ。桂けい之の助すけ道みち犬いぬ小せう對たい面めん。
先ま別べつ事じといふも。俄ふいの上かみ京きやう別べつ義ぎ小せうのらららら君きみ御ご才さい持もちの
の毒どく教がう小せうつひひららへ。火く急きやうの上かみ京きやう別べつ義ぎ小せうのらららら君きみ御ご才さい持もちの
く。旅りゆう館かん小せうかかりりああぐぐ白はく拍ぱく子しと召めい抱ぶく妻さいとああららひひとららののここああべ
虚き病びやうとららまま。佚いつ遊ゆう宴えん樂らく小せう日じつと費つひ。御ご所しよの勤きん仕しとああららひひとららののここああべ
官くわん領りやう職しやく濱はま名な入い道みち殿てんの御ご史し小せう達たつ。擯いん斥せきととききよよ御ご内ない意いあり。
若わららううせせどどんん。御ご家かももかかりり其その罪つみ大おほ殿てんの御ご才さい小せうかかひひとららののここああべ

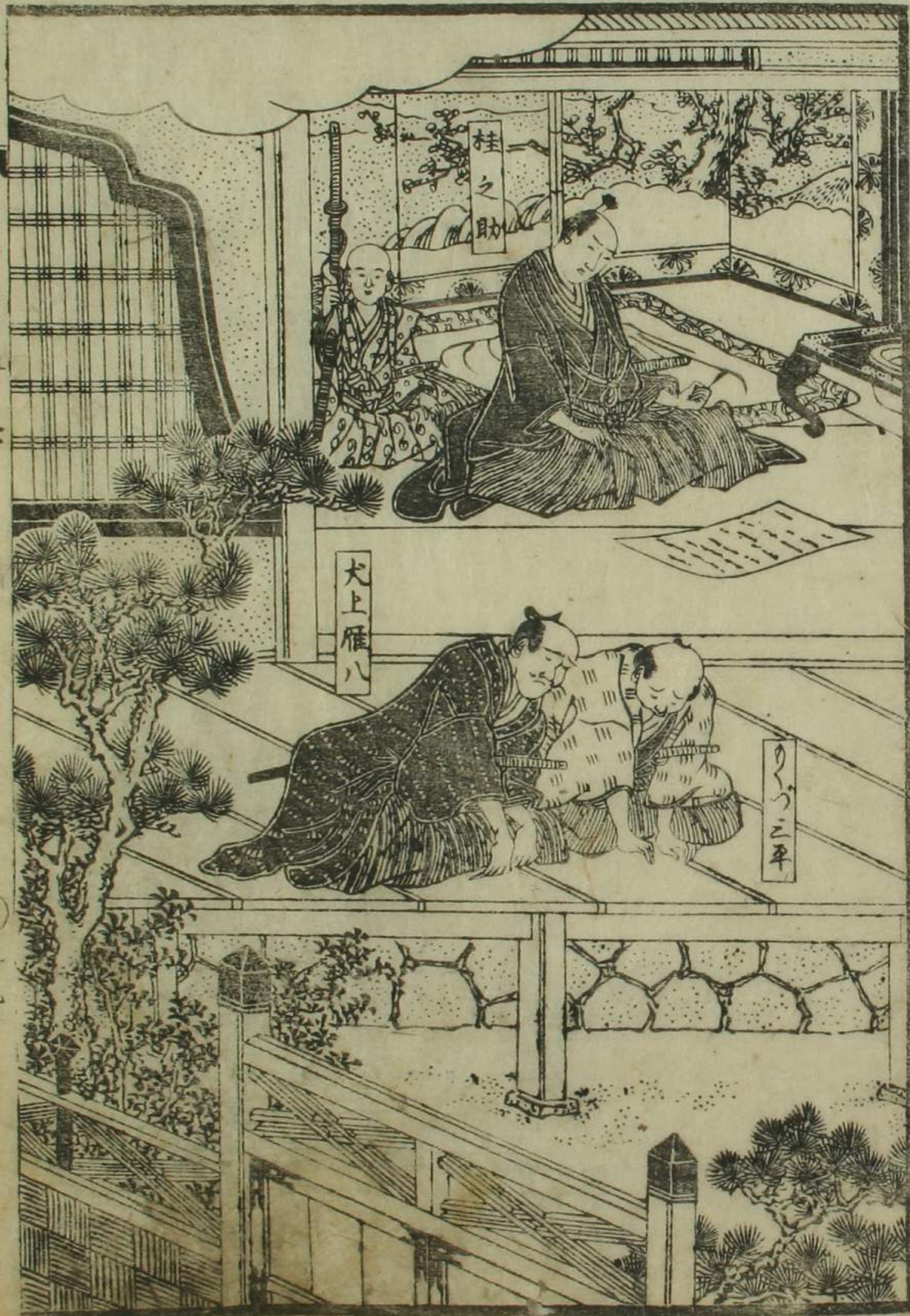
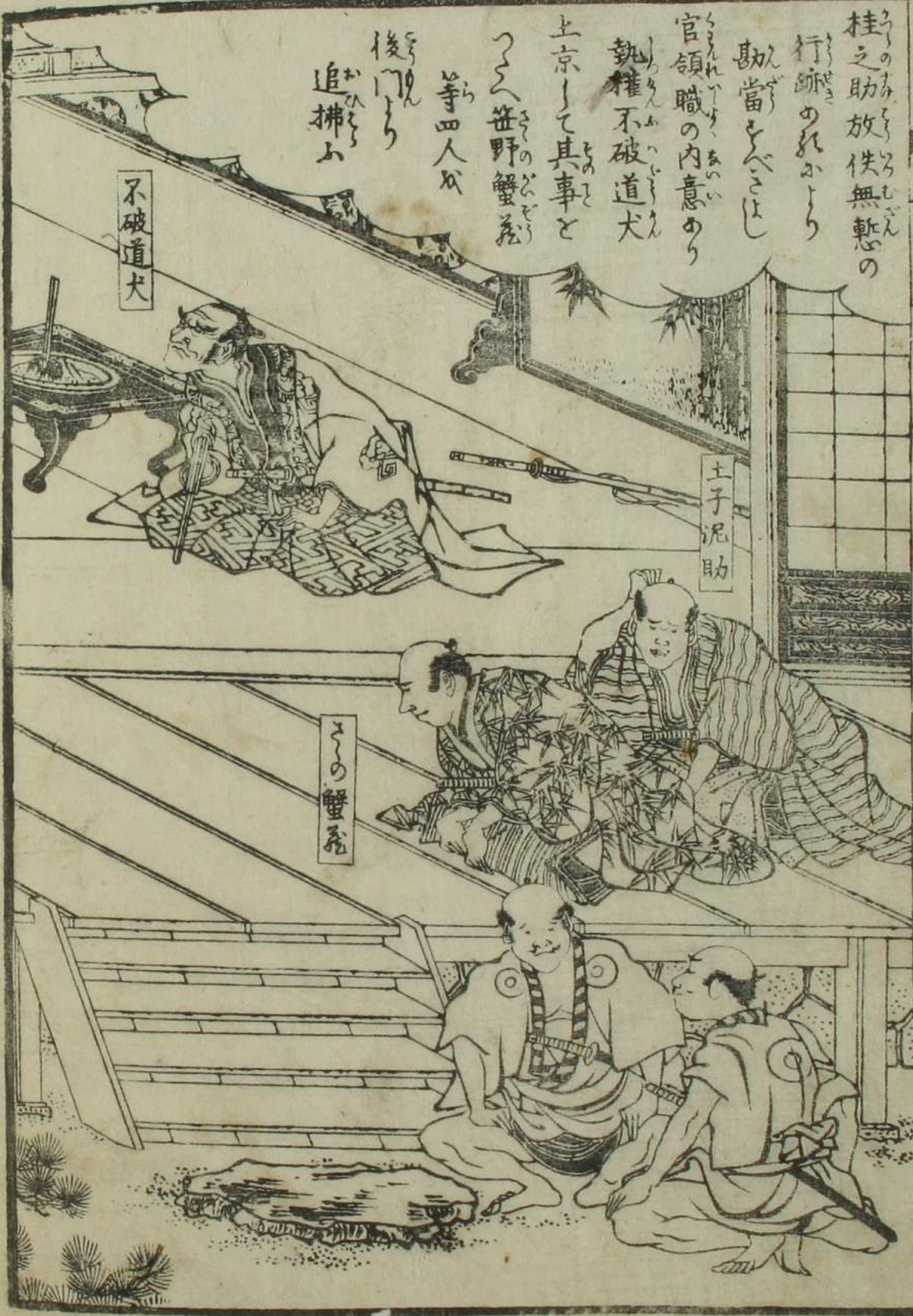
よよああれれババせんせんととららくく。御ご勅しやく當たうの御ご事じあり大おほ殿てん御ご自じ筆ひつの罪つみ
状じやう御ご覽らんああららととののここああべべ。懐くわい中ちゆうより一いつ通つうの状じやうとららしし出いてははかかいい。桂けい之の助すけ
ららりりああげげてて讀よみももかかりりもも。胸むねひひととけけれれとと大おほ小せう後ご悔かい。只ただじじららららとと
言いあり。道みち犬いぬかかささららいいららハハ。笹ささ野の蟹かに。藻も屑くず三さん平へい。土つち子こ泥でい助すけ。大おほ上かみ
雁かり八はち等とう。四よ人にんの者もの。君きみの御ご傍たわらみみありあり。御ご諫いさなももせせどどつつらら故ゆゑ増まをを
ととららりりととれれ。條じやう其その罪つみ輕かろくくもも。切せき腹はらととももああせせつつけけららるるべべととららるるもも。
大おほ殿てんの御ご意い慈じととららてて。後ご門もんより追お松まつへへのの者もの余あまありありとと云い。泣なみけけししババ
四よ人にんの者ものハハああげげ首くびししととららりりけるける。乃すなはちち又またいいととくく。只ただ今いま御ご次つぎににけけ
たたままりりれれババ。佐さ良ら三さん八はち郎らう。長ちやう谷や部ぶ。雲うん六ろくととつつひひ合あせせ。昨け夜や百ひやく蟹かにのの卷まき物ものとと
盜かす。御ご妻さい友とも波なみととややんとと殺ころしし逃にげ去さりたたららしし。ささああれれ内ない乱らんのの起おこるるもも。
總そう是これ君きみのの御ご行ぎやう跡あとよよららししのの卷まき物ものハハ。御ご家か乃すなはち

重宝とつひ。いまど室町御所の御覽も濟されし。若も等のこと
 けうへん受小達一まぶ。いっかるも沙咎のへんもそりりぢく。沙咎
 つくくちゆへども。そりく。沙立退のへん。後日某亦小あへても。沙
 飯泰ある中。取もくひをぞ。只恙なくおひま。時の
 いさるが待あへかの女の死骸の縁者を召呼く引渡し。いづと
 いひて。先。沙咎が家来小令。四人の老成追おせられた。桂之助
 もせんかどあく。打おはせつ。出まける心のうちかひひかれ
 らる。かくて乃太友波が縁者とよび。死骸あまび小妹於
 と引渡し。館の財宝雜具ととりかえわ。かのれが家来とよめて
 守らせ。たがら小飯國をいとだりり

○後。け時の子緋とす。小。皆る太が奸計より出され

あり。近曾由理之助勝基。濱名入道。兩官領確執とあり。入道
 勝基と打亡さん。結構専ありけるが。兼く不破道大濱名入道
 小内通。媚諂官領の權威とありて。奸計を施し。佐木
 家と棄ひ。濱名の味方かつらんと約し。鬼子伴左衛門其餘
 然。等小つひあくめく。桂之助小放埒をよめ。密に濱名小
 告。言といませく。甚齒瓜りけり。わざと蟹翁等四人の老
 と追おく。一家中の心とゆるさせ。伴左衛門らり。他所小あまひ
 おま。不足あり。扶助し。かの目代ら。内外より更と
 討んたくとあり。只かの色等が一っ心よりいである。伴左衛門友波
 小。慕しとると。雲六が巻物瓜盗く。逃去なれと。は二つのミ
 かりとと

桂之助放佚無慙の
行跡のれかより
勘當とてさし
官領職の内意あり
執權不破道犬
上京して其事と
つゝ世野蟹を
等四人
後門より
追拂ふ



四 荒屋の奇計

山城國葛野郡松尾の近き。梅津の里梅津川とつゝあり。その古
歌詠どよ所あり。そのこと元享の頃此里小梅津豊前左衛門
清景とつゝ人ありけり。此所の領主なり。家富榮る武士ありけり
其北月林大幢國師。洛北岩藏の菴室小おるを法名を是珠と稱す。領所のうちと附与して禪利とを。今の大梅
山長福寺とつゝ乃是あり。清景の墓今小此寺小あり。初此清景の
子孫小梅津嘉門とつゝ老のり。累代小住けり。漸く小零落し
今嘉門が時小つゝりて益困窮を。嘉門年いまも初老にいつゝと。
聰明聚秀膽力人小過世小希有の英雄なり。曾て六韜三畧小眼
とささして。軍畧の妙取ときりめ。弓馬鎧刀のたぐひ。武藝の奥儀

と曉し。天文地理神機妙算進退無引の乃其理と得ざるといふ
ことあり。そのゆゑ小英名かゝれあり。高禄と与へてめ抱んと。懇
望の諸侯おかりけり。名利小屈するときひく仕官とのぞきど。
常小松尾山小のり。採薬して薬店小ひきた。細煙とて清貧とまじ
まじ。いさうも奢の心あり。一人の老母小孝行と尽し。姿も斬髪小や
つゝ。いさうも先祖清景大幢國師より傳來の禪味とわすれし。
世小詠らぬ暮し。実小一世の賢士と知らせぬ。母も又賢女小。今の
世ややく治平とつゝも。仕へさるべし明君はと心を決し。嘉門が名利
屈せざるをみひ。いさうも布と織て日この費小わいさうも貧苦と愁ど
暮しぬ。まう小頃日彗星わつゝ小より。諸人心安うど吉山と辨む
老ありけり。一夜嘉門椽先小立出。かの星とめは見え。母とすれさて

つひつひの梓我知小彗星あつたなる。皇極天皇の御宇、蘇我の入麻
叛乱の時始ては星のつれつれ。今つるまで一度も祥瑞あること
あり。凡彗小五つあり。其色蒼蒼たる。王候破して天子兵革小苦。赤
とき凶賊起して國人安らざる。黄あつた女の色害とある。白とんを將
軍殺て兵乱大起。黒い水の精めて洪水河小溢て五穀登どあま
見る。此度の彗星其色蒼小黄とおびたり。まはく是北難晨一
婦女權と奪。天子兵革小苦。前兆つていん。母人いひをあり
みんやんとつべ。老母點頭我もろく小その心つきぬ。花の都狐狼の
伏土とあらんこと遠わじ。とや此所と去り山林小わけて。兵乱
避る小とくべ。どとつひける。以後果して應仁の大乱起りぬ。母子
兩人の先見誠是あつたりありとつべ。は頃由理之助勝基。濱名

入道兩官領あり。勝基の濱名が塔つてとく。子あれたる濱名
が子と養けらる。勝基實子出来らる。其養子と僧とをこれより兩家
確執とあり。濱名勝基と打亡。かのとむり權威とわい。いふせん
と欲。密に野伏浪人をもと召抱らる。嘉門が軍畧小達。とらと
空かよひ。召抱んと使者と以ていひ入たり。嘉門の兼て入るが行跡と
居たり。使者此の所専官領職の權威とある。無礼の詞をか
つりけと。嘉門心中小憤。招不應せらる。つらと入るが日來の
不るとかぞへて。辱め。きひ。つらとあらる。使者面目と
失ひわら。の体小て立改。入る小嘉門がつらと様と。あつと。小
告まこ也。入る小あつと大の憤發。やとれ。腐儒者め。か
憂目と見せて後悔とせんと。家来岩坂猪之八。荒男小。大力此

組子二十餘人と撰与へ。彼奴も智謀武術小秀る者あれば若手小あま
ら首小して持くれと命ど。血氣ふも中猪之八かゝるくめと答へ
小鼻足小才とつとめ。彼奴たも楠が智となく、義経の早業と得たり
とも。瘦浪人の分は、何れもあしん。黄土小屋と踏つふ。首とらへさ
かてつゝんと廣言吐。思慮もあね組子等いさもとて相とさふ
梅津の里へ急ゆく嗚呼嘉門が才のうへ危うう々々次第なりは時
宵闇の夜ありける。猪之八等嘉門が家小近づく。比月影あが
明あり。嘉門へ燈下小書と讀壁人あり。障子ふうつてたゞ小見也
志で打砧の音する。老母の手業とあが。猪之八等の竹林のうら小
才とひそめ。權便宜とろかひ居る小。嘉門宿鳥の鳴さつくとつつけ
あな笑止や我推量なごいど。命とらど。愚人とも。我家と襲とめぐ

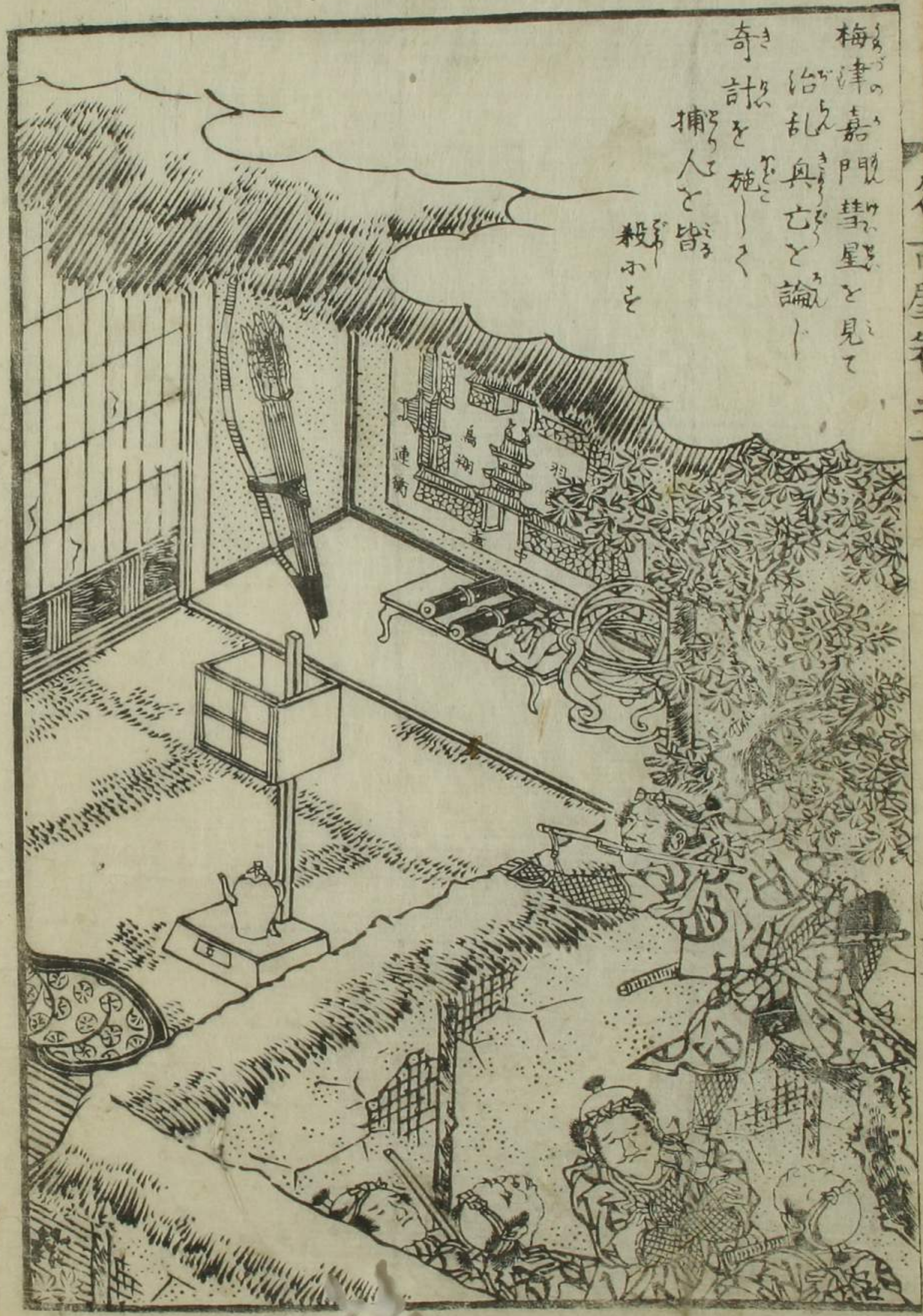
たり。いで皆殺し小あくるきんごと。灯火ふさけりて其後音もほ。猪之八
これとぞ。あぐさ奴わがつひごころみ。とや。擲捕て手柄せよ者ともと
下知一つ。先小きとて門外より色高。それ官領職の者命とつあり。
嘉門とめし捕る。岩坂猪之八ひらり。いそれ門とひくれ。尋常小
繩めととられば。障子のうち小呵くさ。大志し。汝等がどれ。籠輩
へおろしたも。濱名入道。かく。教百騎と以て攻るとも更小おとる。所
あり。嘉門が居宅の鉄壁石門要害堅固の城郭も同然あり。命が
く頭とおさへてとや。外これとあごたりのみ。猪之八等大お怒いと
ひらんととら小堅ととらり。志やめめ。と力とさめめ。とらと
押小。不ぞゆるまりてとらり。と。急い中つと踏破り。大勢一度おら入て。
様の上小花より。障子ととらととらけ。一間成る。と。梅津嘉門

名古屋巻之二

七二



名目録



梅津嘉門衛と見て
 治乱真亡と論
 奇計を施す
 捕人と皆
 殺す

名目録

十五

萌黄薰の腹巻のうへに金紗の道服と着し。金作の圓鞘の太刀が
 くれた。手小文曲武曲の二星と画する軍扇ととりて床机小ありたれ
 取勢志氣堂々威風凛々として。いふも一個の英雄と云へり。うり
 老母はあまびたれども。摺箔の昔模様の袷衣と壺折て着し。雪とあざ
 ひく白髪とされ。玉などけりて。うり。打扮銀の蛭巻とる長刀
 と小脇ういとも。傍ひうへなる婆老木の梅いのへの薰残りて
 奥由し左の方小千金弩と称して一發数十の箭と花と兵器
 とを。右の近頃壺園より泣き。磐石と打碎く火術の具五六挺
 筒先とそろへてあふり。勢こ組子等花道具心か
 とも。めのたると見て猪之八色と願し。賦甲斐あれ老どもうみ。けづ
 小嘉門一人の外のかま老女あり。たふ三面六臂ありとも。いはる

数々の箭玉とあり。ことわらんや。見せうけむりの兵具かとる
 かな。どのやしりて。搦捕若り逃る。我レが紙度ありと下知
 とも。ふど組子等けむとさりとる。我先とわるをひ花めらんと
 ちる。所小嘉門軍扇とわけて一のみぎあげに兼て用意の硝磺
 繩小燈火うり。緋火とありて五六挺の火術の具一度小發し。其
 ひれ大雷のぶと。数の鉄丸花かて。前小となる組子十余人
 打倒され。煙のうら小のたり伏と。老母の長刀の鐔を以て弩とつれ
 けけ。数十の箭雨のぶと。花をとし。組子と残らど射伏とり。
 猪之八手をやく弩と盾りて箭玉とのれ。逃知んとさるをれ小
 忽板敷磊落こひる。漆を落し穴のうら小の瞳とおちりの底をさる
 たる劍小のとつぬれ。朱小漆りて死しとらり。嘉門のかま等の

かまへとありかまへとありいふればこれまで近國他國の諸候乃
 請待小應せざれば若おのれが宏量とれと。不意と襲ふ共あるん
 とふせざん乃あるが。果してけな不慮の難義とすぬれとるると
 嘉門老母おむる。今宵のころは、實に濱名入道益怒多勢と以
 てとりかこまべのぼりてだてあるべし。幸母人あて山林の牙と避
 く生涯無事と計むらん。深心あれば。今宵中おけふとのぞれ玄小
 ある。母人のいふおむをやんとといふ。老母その意お同し。母子おん
 いそぐいしくお支度して。雜具の其候とておき。先祖傳來の兵
 家の秘書。大幢國師の法語一卷のくと嘉門が懐い。老母を背負
 く。いづくともあくおちゆれり

卷之一終



